

読書会 『創造の方法学』

～情報洪水の中でいかに知的創造は可能か？～

政治経済学部 地域行政学科 2年 相田真美

はじめに

本の紹介

- 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書（1979）
- 社会科学研究や社会調査のような知的生産をする上で必要となる思考法を提供してくれる、日本では数少ない「方法論」の入門書。

著者紹介

- 高根正昭（タカネマサアキ）
- 昭和期の社会学者 上智大学教授。
- 生年昭和6(1931)年6月1日
- 没年昭和57(1982)年9月2日
- 出生地東京都
- 学歴〔年〕 学習院大政治学科〔昭和29年〕卒業,スタンフォード大学コミュニケーション専攻〔昭和40年〕修士課程修了,カリフォルニア大学社会学専攻〔昭和47年〕博士課程修了
- 学位〔年〕 社会学博士(米カルフォルニア大)
- 経歴カリフォルニア州立大助教授を経て、上智大学教授となった。著書に「日本の政治エリート」「創造の方法学」「未来のための知恵」など。

名著である理由

- 一切の予備知識を必要とせず、初心者であっても方法論についての知識や重要性を理解し、会得することが出来るから。
- 時代を経ても読者を納得させるものであるから。

本編

目次

1. 方法論の定義, 重要性
2. 用語の定義, 解説
3. 頭の中の世界と現実の世界
4. 経験世界へ落とし込むには
5. コンピュータを使用した数量的研究
6. 質的方法
7. 一つの事例を詳しく研究する
8. 現実世界の理解—ジャーナリズムを題材に
9. 知的生産のために

1. 方法論の定義, 重要性

2. 用語の定義, 解説

2. 用語の定義, 解説

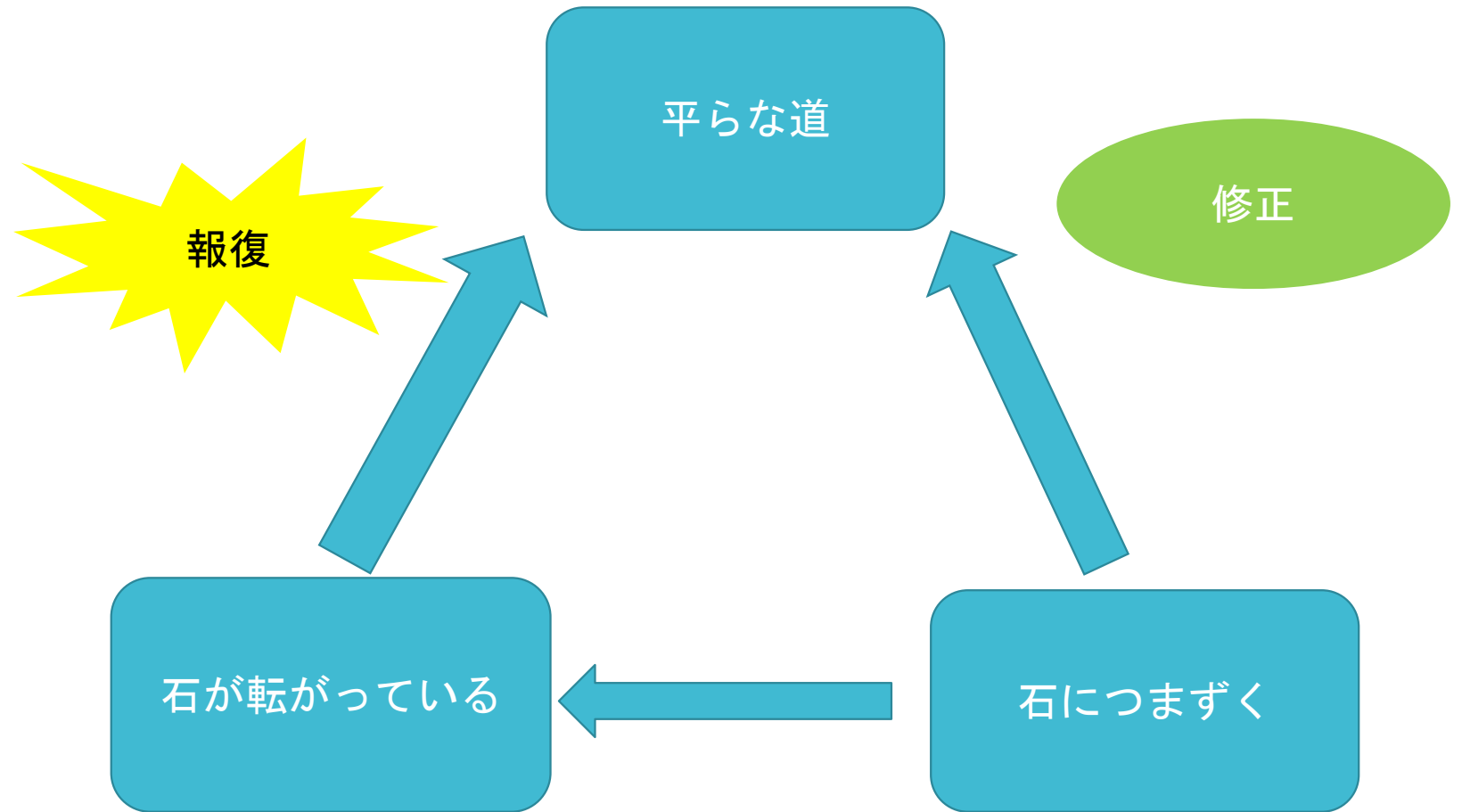
→ 説明的研究を行うには、
どうすればよいのか？

3. 頭の中の世界と現実の世界

3. 頭の中の世界と 現実の世界

- 説明的な知的生産を行うためには
→ 抽象世界と現実世界の往復が大切
- 抽象世界と現実世界の往復とは？

3-1. リップマンの三角関係



3-2. 概念の 修正と創出

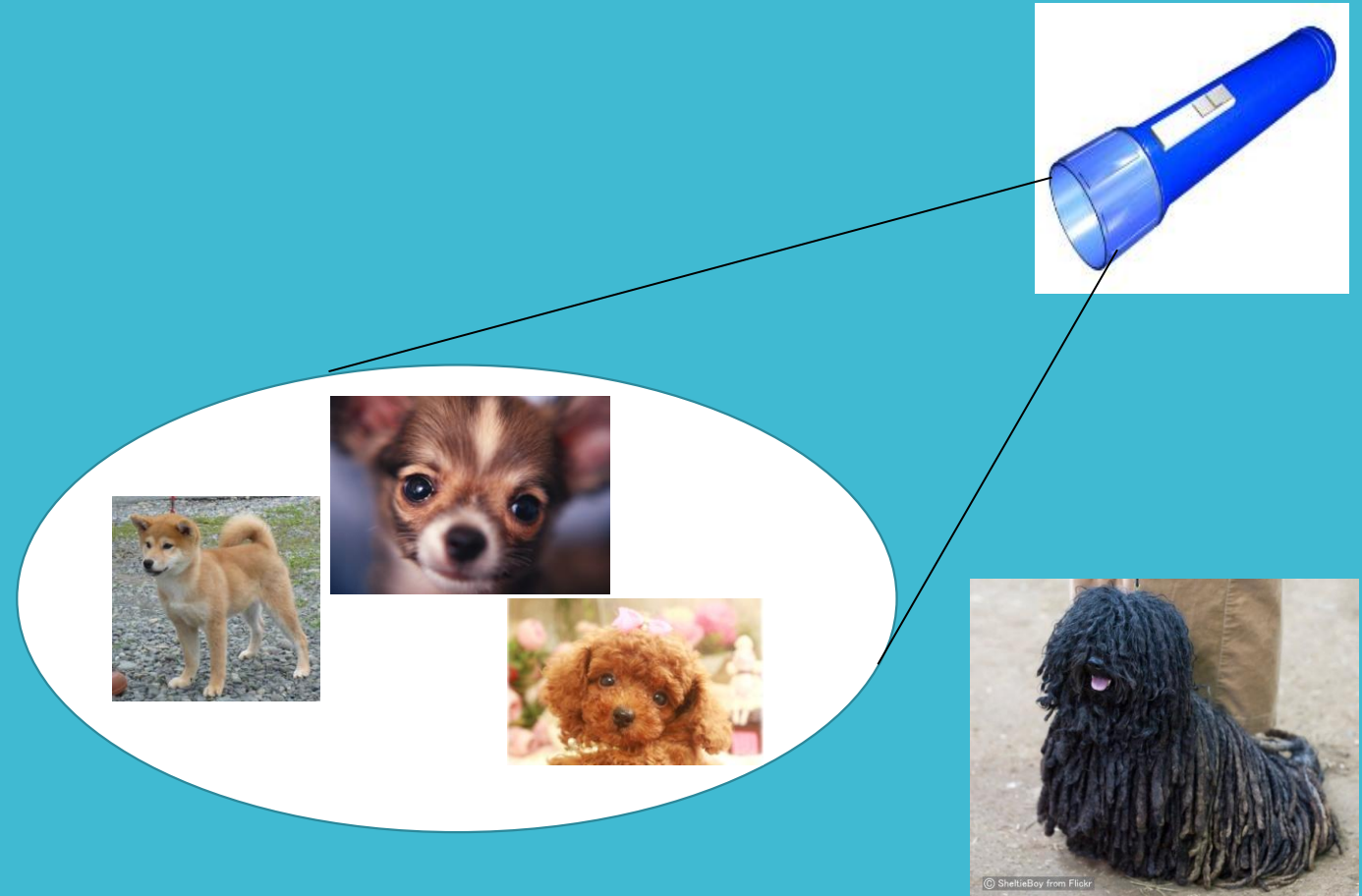


プーリー (犬)

3-2. 概念の 修正と創出



3-2. 概念の 修正と創出



3-2. 概念の 修正と創出



概念化

3-4. 抽象世界を
現実世界に落と
し込む



概念化

4. 経験世界へ 落とし込むには

5. コンピュータを 使用した数量的方法

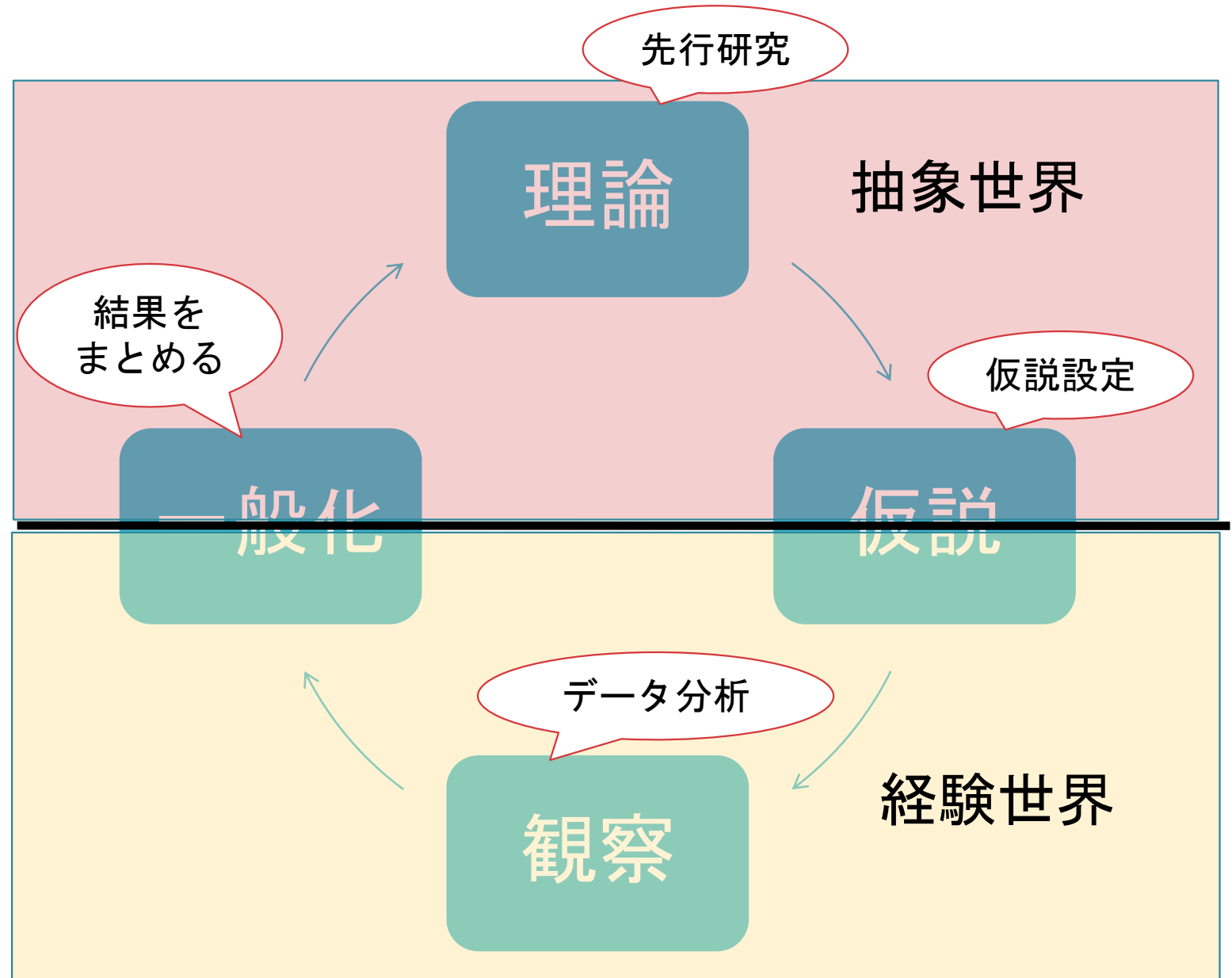
6. 質的方法

7. 一つの事例を 詳しく研究する

8. 現実世界の理解—— ジャーナリズムを題材に

9. 知的生産のために

9-2. 自ら理論を構築する





ご清聴ありがとうございました！